

2005年(平成17年)  
1月1日土曜日(毎月1日発行)

1部50円(消費税込・送料別)  
発行所/天台宗出版室  
発行人/出版室長 工藤 秀和  
〒520-0113 大津市坂本4-6-2  
天台宗務庁内  
電話 077-579-0022 (代)  
Eメール/T-Press@tendai.or.jp

一隅を照らす運動推進会報

〈一隅推進会員〉  
年会費(2500円)中に会報  
(天台ジャーナル)購読料を含む。

謹んで新年の  
お慶びを申し上げます

天台宗  
一隅を照らす運動総本部

# 私たちの誓いを灯に



兵庫県伊丹市の昆陽池公園での「阪神淡路大震災犠牲者追悼のつどい」(2004.1.16)

今日十七日に、一瞬にして六千四百人以上の死者と四万人を超える負傷者を出した阪神淡路大震災から、十年目を迎える。あの激しいシヨックは、しだいに記憶から薄れ、風化していくように見えるが、体験した人々は決して、あの日のことを忘れない。天台宗でも、本堂全壊など甚大な被害を受けた寺院が多かった。そして、震災はあの日から、救援活動を行った青年僧に大きな影響をもたらした。

● 阪神淡路大震災は「ボランティア元年」とも呼ばれる。天台宗でも、その時、初めて青年僧侶達が被災地に入り、ボランティア活動を行った。寺院にあれば、「主役」として法事を執り行い、衆生に向かう僧侶が、ボランティアの場では一般と全く同じく「名も無きひとり」になって救援に、炊き出しに従事した。何が出来るかと悩むひまはなかった。出来ることをした。もちろん止らなくなった人々の鎮魂もおこなったが、仕事は圧倒的に物資の運搬や、雑役が多かった。

そこは、生の人間感情が炸裂する修羅場であった。困っている人々に施すのだから、感謝されるはず。などという甘い考えは、吹っ飛ばされた。その事は、やがて日々の修行の中で、自分の行動と理念を厳しく問い直すことになる。一方では放心したように無感動な女性がいる、怯えきっている幼児がいる。そして、合掌して涙を流す人がいた。手を握って感謝する人がいた。

良くも悪くも虚飾をはぎ取った「人」と「人」が遠慮

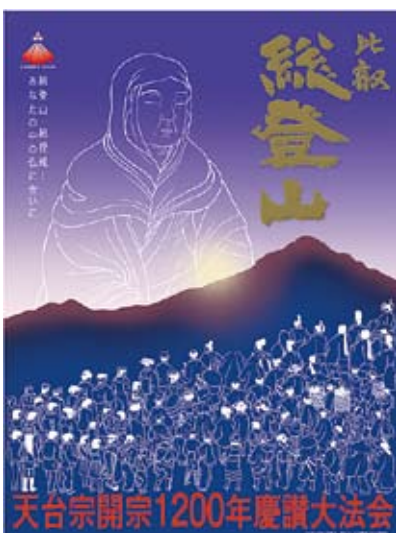
容赦なく裸でぶつかり合った。「理屈をあれこれ言うよりも、困っている人々の中に入っていくことが大事。その勇気をもった」(兵庫教区・住職)。今、十年を迎えて、被災地は一応の復旧をみ、静かな生活に戻っている。阪神淡路大震災から九年が過ぎた。これまで、そして、これから。「日常は、生者と死者は整理と区別されている。だが、そこは生と死が混在した場所

## 「総登山」ポスターを作成

### 十月には大法要を厳修

平成十八(二〇〇六)年に、天台宗は、開宗千二百年の記念すべき年を迎えます。天台宗では、開宗正當年前の平成十五年四月から「開宗千二百年慶讃大法会」をはじめ「あなたの仏に会いに」をスローガンとした檀信徒総授戒運動を展開してきました。開

宗千二百年まで、いよいよ一年と迫った今年四月からは、三力年にわたって「総登山」運動が始まります。開宗千二百年慶讃大法会事務局では、このたび総本山延暦寺に「総登山」して頂くためのポスター(サンブル左)を作成し、ひとりでも多くの方々の参拝を呼びかけています。



だった。僧侶は死者の葬儀と鎮魂が第一の使命と世間では思われている。それは、その通り。しかし、ギリギリのラインで生きている人々たち、その人たちの側に寄り添って働くこと、それが天台宗僧侶・宗教に携わるものの使命だと痛感させられた」(京都教区・住職)

阪神淡路大震災は、私たちの胸の中に生き続ける。

## 4・5面に特集

特に、檀信徒総授戒で仏縁を結ばれた皆さまには、祖廟浄土院において宗祖伝教大師さまに授戒のご報告を頂きたく存じます。そのことにより、宗祖大師さま、また仏さまとご縁はより一層強く結ばれます。開宗千二百年という、得難き勝縁のこの時、総本山延暦寺の御仏と四季折々の風光は、皆さまを法悦の慶びに包み込むであります。

また、本年十月には、一カ月間にわたって比叡山延暦寺根本中堂において、宗内寺院はもとより二十六縁故教宗派による大法要が営まれます。開關には天台宗で最も重要華麗な法儀とされる四箇法要が厳修される運びです。更に瀬戸内寂聴師作、大藏流狂言茂山一門出演による最澄上人入山伝説が新作狂言として初演される事となっております。



# 理想社会の実現目指して

## 天台座主 渡邊 恵進



皆様、明けましておめでとう  
ございます。

旧年は、内外ともに多難な年であったといわざるをえませ  
ん。海外には中東地域などにて  
戦乱・紛擾の風が吹きすさび、  
国内では水害・台風禍が相続  
き、新潟中越地方は震災に見舞  
われて多くの人命・財貨が失わ  
れ、今もお苦しみの中に新年を  
迎えられた方も多いことと存じ

ます。謹んでお見舞いを申し上  
げ、一日も早い立ち直り・復興  
をお祈り申し上げます。

また昨今、児童・青少年が犯  
罪に手を染め、その被害に遭う  
報道も多く、濁世の感を強く  
し、心寒さを覚えずにはおれま  
せん。

さて、宗門においては三年目  
を迎える開宗千二百年慶讃大法  
会が種種の行事・事業を進捗せ  
しめる中、本年は十月に宗内並  
びにご縁の教宗団による大法要  
が執行され、加えて檀信徒総登  
山が始まります。主要事業たる  
総授戒運動は多数の参加者を得  
て成功に赴いていると聞き及

び、慶びに堪えないところで  
す。伝教大師の目指された理想社会  
の実現は、一人一人の持戒の心  
が基盤となつて具現に向かうも  
のと信じております。そして、  
これを敷衍することによつて、  
家庭ならびに地域の安寧が生ま  
れ、社会浄化は進み、ひいては  
相互扶助・共生の世、すなわち  
理想社会は近づくものと思つて  
おります。

今回大法会の諸事業を通じ  
て、目指すところは『あなたの  
中の仏に会いに』すなわち自ら  
の仏性を確認し、仏心涵養を図  
り、もつて宗祖伝教大師が『願  
文』『遺戒』等にお示しになつ  
た人としての有るべき姿を求め  
ること、即ち僧俗共に菩薩と  
なることと申せます。皆様のご  
精進とご協力をお願いして年頭  
の辞といたします。

# 宗祖大師の御高恩に報ずる

## 天台宗宗議会議長 奥村 慶淳

謹んで新年のお慶びを申し上げ  
ます。

天台宗開宗千二百年慶讃大法会  
も三年目に入り、各教区で予定数  
を上回る檀信徒総授戒が展開され  
ておりますこと同慶に耐えませ  
ん。本年は、十月から一カ月間に  
わたり総本山で慶讃大法要が厳修  
され、天台宗はもとより縁故各教  
宗派の慶讃法要が執り行われるこ  
ととなっております。私どもは、  
この勝縁にあたり、更に一層宗祖  
大師の御高恩に報ずるよう努めな  
くしてはなりません。

宗議会といたしましても、当局  
をバックアップし、多様化する現  
代社会に即応する施策を打ち出す  
よう努力する所存であります。

現代の日本社会は、児童虐待や  
犯罪の低年齢化など、誠に憂慮す  
べき問題が山積しておりますが、  
古来日本人が大切に生きてきた宗教  
道徳の荒廃がその原因でありま  
しょう。

開宗千二百年慶讃大法会は、宗  
祖大師のみ教を全国に敷衍し、  
現代に生きる天台宗を打ち出す千  
載一遇の機会であると存じます。  
また、昨年の自然災害で被災され  
た皆さまへの救援救助の手を休め  
ることなく、出来る限りの支援を  
行わなくてはなりません。  
本年も、皆さまの変わらぬ健勝  
をお祈りしてご挨拶といたしま  
す。 合掌

# 忘己利他の実践に

## 天台宗宗務総長 西郊 良光

天台宗檀信徒の皆様、新春明け  
ましておめでとうございませ  
す。お健やかに新春を迎えに  
なされましたこと大慶至極に  
存じます。

昨年を振り返りますと、台風・  
地震などの自然災害が多発し、多  
くの人々が被災されました。心よ  
りお見舞いを申し上げます。今な  
お災害の爪痕は生々しく、新年を  
仮設住宅や避難所で迎える方々を  
見るにつけ、私共仏教徒は、天災  
に遭われた方々、台風二十三号水  
害や、新潟中越地震の被災者の  
方々には、出来る限りの温かい  
手を差し延べなくてはならないと  
存じます。宗祖伝教大師さまは「己

を忘れて他を利するは慈悲の極み  
なり」と申されました。その意味  
は、他の人々の苦しみを自分の苦  
しみとして、その救援に力を貸さ  
なくてはならないという事であ  
ります。特に総授戒会を受けられ、  
菩薩となられました檀信徒の皆様  
には、是非お力を賜りますようお  
願い申し上げます。

さて、お陰様で今年天台宗立  
教開宗千二百年慶讃大法会も三年  
目を迎えました。総授戒推進の正  
念場の年であります。昨年、全  
国各教区の檀信徒の皆様様に御参  
加賜り、一万余名の方々が「あな  
たの中の仏に会いに」のスローガ  
ンのもと、仏様との出会いをされ

# 総授戒と総登山

## 天台宗宗務所長 会会長 神原 玄應

皆さま、明けましておめでとう  
ございます。

天台宗開宗千二百年慶讃大法会  
も、歡喜法悦の大きなうねりが全  
国に高まり、「あなたの中の仏に  
会いに」というスローガンのも  
と、宗祖伝教大師のみ心を体し  
て、総授戒・総登山をはじめ、慶

讃の浄行が展開されております。  
新春を以つて九十四歳のご高齢  
をお迎えになられた二百五十五  
世天台座主 渡邊 恵進 大僧正 現下、  
宗徒の先頭にお立ち下さり、お導  
き頂いておりますこと、誠に慶  
祝の至りでございます。

いよいよ大法会三年目を迎えま

ました。今年はその総授戒会が、  
更に全国各教区で行なわれ、三万  
余名の授戒者が予定されておりま  
す。

檀信徒の皆様には、この総授  
戒会を通して、更に信仰を深  
められ、社会浄化の先頭に立っ  
て、

て、明るい家庭、社会の創成にご  
尽力下さいますようお願い申上げ  
ます。

今年が皆様にとりまして素晴し  
い年になりますことをお祈りし、  
新春のご挨拶とさせていただきます。

教区それぞれ、年次計画に基づ  
き、諸行事を展開しますが、加え  
て、一人一願の活動により、各寺  
院、あるいは個人としての報恩  
の発露も期待されています。

要は、開宗千二百年を契機に、  
益々、檀信徒の皆さまとの絆が強  
まり、信仰を基盤とした、寺との  
結びつきが生まれ、発展をめざす  
ことです。

皆さまそれぞれが、宗祖伝教大  
師への帰依を深め、そのご精神を  
心に刻んでくださることを念じて  
やみません。  
新春に当たり皆さまの益々のご  
隆昌とご多幸をお祈り申し上げ  
て、ご挨拶と致します。

# 謹んで新年のお慶びを申し上げます

- 妙法院 門跡 門主 菅原 信海 執事長 木ノ下 寂俊
- 三千院 門跡 門主 小堀 光詮 執事長 大島 亮幸
- 日光山 輪王寺 門跡 鈴木 常俊 執事長 小暮 道樹
- 東叡山 輪王寺 門跡 (東京・恵) 門主 神田 秀順 執事長 浦井 正明
- 善光寺 本坊 大勧進 貫主 小松 玄澄 電話 029-0851 長野市 深野町四上二
- 医王山 毛越寺 貫主 南洞 頼教 電話 029-4102 岩手県 平泉町 平泉 大沢五八
- 西国第一番靈場 那智山 青岸渡寺 住職 高木 亮享 TEL 075-5555001 FAX 075-555057
- 浮岳山 深大寺 住職 谷 玄昭 〒182-0017 東京都 瑞穂市 深大寺 北町十五十一



寺に暮らすと、大晦日や元旦をゆつくりと過ごすという事は、まずない。

除夜の鐘のある寺院はもちろん、初詣をすませた人々が、払暁から一年の幸せを願って参拝されるからである。また、修正会という元日の法要儀式もある。

年越しそばもそこそこに、数時間の仮眠で、年始ご挨拶を受ける住職さんも多い。

もちろん、奥さんをはじめ、寺族は、準備とお手伝いで、一年に数度という大忙しとなり、世間とは全く逆のお正月風景が展開されるのである。

ゆえに、家族でゆつくりと新年気分を味わうのは、どうし

ても二日から三日になってしまふ。

それで、忙しい時の食べ物を考えていたら、船場汁のことを思い出した。

船場汁というのは、大阪のすまし汁のことである。熱い汁の中に、大根の千切りと鯖の切り身が入っている。昔は、丁稚さんがよく食べたフアースト・フードだ。遅くまで掛け取りに走り回る人々が、サツと食べて暖を取るためによく売れたという。

私はこれに生姜の絞り汁を落として、ちよつと贅沢にしたりしている。贅沢といっては、酒のアテにちよつどい

い。これに餅を入れれば、雑煮にいいかなと考えたが、やはり違うようだ。

雑煮には、各人の故郷と文化が現れるとは、よく言われることだ。丸餅、角餅、焼いたの、煮たの、すまし汁、白みそ、等々。共通するのは、誰もが自分の雑煮が一番と思っていることである。それは、子どもの時の正月の思い出と密接に絡まっているから、宗旨替えは難しい。難しいが、不可能ではない。現に、私は東京の生まれであるが、山形に来て、今では、家人の作る雑煮を「こんなに旨い雑煮はない」と思って食べているのである。

### お雑煮

## 鬼手仏心

天台宗出版室長 工藤 秀和



### 花想 風言

新春にまつわるおめでたい花を紹介したい。

コウヤボウキは晩秋の十一月中旬ごろに咲くキク科の花だ。枝先に咲く花が、木を削ったカナン層のように見える。古来、宮中ではこの枝を使って玉帚というほうきを作り、新春初子の日に天子は豊作を祈願して田を耕し、皇后は蚕室をほうきで掃いて蚕の神を祭る儀式に使った。筥には多くの貴石がちりばめられて、床を掃くことに光って小さな音を立てた。その情景が詠まれている。

はつはるの 初子のきよらの 玉帚 手にとるからに ゆらぐ玉の緒 (万葉集) 大伴 家持

### 第10回 コウヤボウキ 福田徳衍 (文・写真)

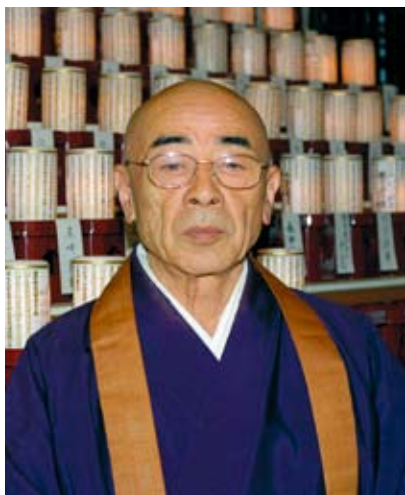
コウヤボウキの名の由来は、竹を植えるのを禁じていた和歌山県の高野山で、小枝を集めて小さなほうきを作り、経机の上など身の回りを掃除するのに使われたところから名がある。

実物は奈良・正倉院の宝物に二本が現存して「子目利帚」と呼ばれている。長さ六五咫。掴む柄は直径四咫ほどで、紫の染め皮に金糸を巻いている。復元品は奈良の国立博物館で常設展示をしているはずだ。

コウヤボウキは北日本をのぞく全国の日当たりの良い斜面に分布しているから、皆さまのお寺の境内にも多分咲いていることだろう。

◆プロフィール  
一九三六年東京生まれ。十歳から二十一歳まで比叡山小僧生活をして過した。元朝日新聞記者、信越教区新潟部・徳法院住職、俗名 福田 徳衍。

## 談話室



昨年天台宗宗機顧問に就任した  
九州西・金乗院住職 藤 光賢 師

総長職を退いて一年半が過ぎた一昨年、天台座主への登壇門

と藤師は、笑顔で言った。しかし、京都駅まで藤師を見送った人は「どう、言葉返していいの。まともな顔を見られなかった」と言う。藤師にとっては、法の友であり、また賢夫人で知られた廣照尼は、半年前の六月に亡くなったからである。

廣照尼を喪った時、藤師の嘆きは激しかった。法衣を通してもそれとわかるほど、体重は著しく落ちた。それでも任期まで

「松露」は、京都の老舗菓子舗・亀屋友永が販売する、薄いねずみ色をした饅頭で、茶人にはよく知られた銘菓である。

平成十三年十二月、天台宗宗務総長を任期満了で退任した藤光賢師は、大津市坂本から佐賀県の自坊・金乗院へ帰郷するにあたって、この菓子を二箱求めた。

「長く留守にしたから、妻へ土産を持って帰らにやならん」

と藤師は、笑顔で言った。しかし、京都駅まで藤師を見送った人は「どう、言葉返していいの。まともな顔を見られなかった」と言う。藤師にとっては、法の友であり、また賢夫人で知られた廣照尼は、半年前の六月に亡くなったからである。

総長職を退いて一年半が過ぎた一昨年、天台座主への登壇門

と藤師は、笑顔で言った。しかし、京都駅まで藤師を見送った人は「どう、言葉返していいの。まともな顔を見られなかった」と言う。藤師にとっては、法の友であり、また賢夫人で知られた廣照尼は、半年前の六月に亡くなったからである。

法華経如来寿量品に「常懷悲感 心逐醒悟」とある。悲しみは消えないが、常にそれを懐に入れておくと、ダイヤモンドのように固く透明に澄み、遂に心は醒めて悟りに至るのである。愛する人を喪うどうしようもない悲しみで、更に信仰は深くなり、新しい回心が訪れる。

少なくとも、そのような藤師を、私たちは座主現下の諮問機関である宗機顧問に持った。ありがたいことといわねばならない。

## 常壊悲感

## 心逐醒悟

ある戸津説法師の内示に「もうそんな重要なお役はいいのではないか」と悩んだ。金乗院副住職で子息の光俊師が言う。「延暦寺様に、辞退の電話をかけるばかりになっていました。それは、それでいいのですが、亡き母は、いつか宗祖大師の報恩のために父が戸津説法をすることを楽しみにしておりましたから、そんなことを聞けば、やはり悲しむのではないかとはいえませんでした。」

戸津説法師を受諾した経緯について、ある人から「滝沢馬琴の『天の与えるもの』を取らざれば、却って禍を受く』というように思いつたのではないのか」との解説を聞いた。冗談ではない。そんな説は、師の心情を少しも理解しておらず、理に落ちすぎて、到底採れない。

いよいよ決断の時に、廣照尼が「そんなことを言わないで、お受けなさい。それが私への供養にもなるのですよ」と囁いたのだらうと思う。証言はないが、確信はある。その方がよほど藤師らしいのである。



# 検証

## 阪神淡路大震災 天台ボランティアの軌跡

阪神淡路大震災が起きたとき、まず最初にボランティア活動に入ったのは、地元の兵庫仏教青年会だった。そして、山形、埼玉、東京、九州、近畿、滋賀、岡山、鳥取、京都など、各地から天台仏教を中心としたボランティア団が結々と集結し始めた。こうして、史上初めて試みられた大規模な震災救援活動が始まることになる。それから、十年が過ぎようとしている。救援活動は、僧侶たちを変えたのだろうか。また彼らの心に、何を残したのか！

震災から四日後に「仏書活動を教区活動とみなす」という教区の依頼を受けて、兵庫仏書懇話会が招集された。当時仏書の理事だった小杉映道は、自坊の常任院を救援活動本部と救援物資中継所に開放することになった。

「まだ副住職でしたが住職の許可と檀家の理解を得て、開放に踏み切りました。」

観音経に「慈眼視衆生」と説かれていて、慈しみの心で一般に接することである。活動する僧侶たちにも、もちろんその気持ちはあつただろう。しかし、言葉で現すなら「己を忘れて他を利する」という方がびつたりくる。

### 人間の縮図の中で

「これまで、檀信徒との交流が中心で、一般大衆との接点が希薄だった。困っている人の中に入っていく勇氣が出た」という感想がある。一方で「田舎の寺院は普段から地域社会にとけ込んでいる。奉仕活動も積極的にやっている。そのことが役に立った」という反論も聞いた。どちらにも、ボランティア活動を通じて肌にした感想がある。

震災の三日後に、神戸に入った当時の京都仏書会長の竹内純照(吉祥院副住職)は「異次元の世界に入った感じがした。虚飾を取り去った後の人間世界の縮図。美しいことも、醜いことも、悲しいことも、楽しいことも、凝縮された世界があった。そこから信頼関係が育った」と思ふと振り返る。

「これまで、檀信徒との交流が中心で、一般大衆との接点が希薄だった。困っている人の中に入っていく勇氣が出た」という感想がある。一方で「田舎の寺院は普段から地域社会にとけ込んでいる。奉仕活動も積極的にやっている。そのことが役に立った」という反論も聞いた。どちらにも、ボランティア活動を通じて肌にした感想がある。



昨年、神戸市長田区に浮かび上がった「1・17いのち」の文字

「施しをする者と施しを受ける者という落差のある関係ではなく、助ける、助けられるという関係でもなかった。同じ位置に立ち、お互いに与え合う人間の関係だ。人間として同じ行動レベルで横一線だった」と思ふ。

「施しをする者と施しを受ける者という落差のある関係ではなく、助ける、助けられるという関係でもなかった。同じ位置に立ち、お互いに与え合う人間の関係だ。人間として同じ行動レベルで横一線だった」と思ふ。

「施しをする者と施しを受ける者という落差のある関係ではなく、助ける、助けられるという関係でもなかった。同じ位置に立ち、お互いに与え合う人間の関係だ。人間として同じ行動レベルで横一線だった」と思ふ。

### 淡々と過ぎた濃密な時間

当時、兵庫仏書事務局長だった桑谷祐廣の應聖寺は神戸市にある。彼は、震災と同時にボランティア活動に入った。本部からは、被災者に迷惑をかけないよう、自坊から通うようにとの指示が出ていたが「神戸市と神戸をあの状態で毎日往復しろというのは無理でした」と振り返る。彼は、現地に留まり「食事が無く、トイレが無い」被災者と全く同じ状態を経験した。小杉が常任院を開放してからは、ようやくそこに転がり込むようにして、救援活動が続いた。



「結局」と国岡が言う。「一連の活動を通じて、一番助けられ、救われたのは、私たちの側なのかも知れない。」(文中敬称略)



「物を受け渡すのはラクなんだ。そこから先、我々が何をやるのが難しい」と何度も言った。仏書達は、しばらく海をみていない子ども達を、舞子の浦に連れて行った。「神戸に海があったんだ」ということを思い出させた。自然の中で子ども達の精神的なケアをすることも大事な仕事なのである。

参加した中安剛円(善光寺住職)は「ボランティアは結果的に布教になり、修行になった」という。だが、それはあくまで「結果的に」という前置きがついての話だった。最初は誰も、そんなことは思ひもしなかった。その裏には「これまで天台僧というブランドに頼りすぎていたのではないか。天狗に為りすぎていたのではないか」という反省がある。

小幡は「大事件だから一堂に集まっただけ。普段の活動と同じ。何かあれば、一つになれる」ということは証明された」という。

### ボランティアで命も救えた

それを裏付けるように、前兵庫仏書会長吉川廣隆(法雲寺住職)は「それまでボランティアといえば、社会奉仕としてしか捉えていなかったが、命すら救えることがわかった。平成十六年の台風被害でも兵庫仏書に声をかけたわけではない。メーリングリストに載せた報告を見て、自発的に集まってくれた。阪神大震災の体験が生きた」と語った。

ボランティアたちにとって、被災地で暮れに餅つきをしたことは、今でも忘れられない。杵を握ったことのない者も練習して餅をついた。被災者の中に餅どりのうまい人がいて、白に何杯もついた。二個や三個の餅を大事そうにして「いつもはお正月に、神様や仏さまに供える餅だけ」と持って帰る被災者たち。その年の餅は墓前に供えるものかもしれない。彼らの後姿に合掌せずにはおられなかった。

### 天台宗ニューヨーク別院 本堂落慶記念参拝団

三千院門跡小堀光詮御門主御親修

期 間 平成17年6月24日(金)~29日(水)  
 旅行代金 254,000円  
 募集人員 100名  
 申込締切 平成17年3月末日  
 宿泊先 ニューヨーク・ヒルトンホテル(4泊)  
 主催 天台宗海外伝道事業団  
 申込先 (株)阪急交通社 東京団体支店営業2課  
 「天台宗ニューヨーク別院本堂落慶記念参拝団」係  
 担当者: 永野・山本・落合  
 TEL 03-3508-0280  
 FAX 03-3508-0368



# 対談 医療と宗教の最前線から



浦井 正明 (うらい しょうめい)  
1937年生まれ。1961年、  
慶應義塾大学文学部史学科卒業。  
東叡山寛永寺執事長。現開院住職。



野中 博 (のなか ひろし)  
1947年生まれ。1972年、  
東京医科大学卒業。同年東京医科  
大学内科教室入局。1985年、  
野中病院開業。現在、浅草医師会  
会長、日本医師会常任理事。

## 『人がよりよく生きるためには』(中)

### ガン告知の是非

浦井 残された人生を有意義に  
ということですが、ガン告知につ  
いてはどのようにお考えですか。

野中 告知の方法や家族との信  
頼関係など、それぞれの状況を判  
断して、残された期間を正しく充  
実したものにできるという条件が  
そろえば、私は告知をしてもいい  
と思います。しかし、条件もそろ  
わず、ガンでも告知するというの  
は、必ずしもいいことだとはいえ  
ません。最近では、最期はホスピ  
スで過ごしたり、亡くなるまでの  
二、三週間はなんとか自宅とい  
うような形態が各地区で行われ  
ています。自宅で家族との時間も  
とるということであれば、告知は  
必要だと思っています。

## 障害があっても地域との交流が 持てれば世界は広がる

浦井 でも、それは非常に難し  
いことでもありますよね。技術的  
な治療をするだけではないわけ  
ですから、医師としてジレンマがあ  
りませんか。

野中 そうです。この問題は単  
に、ガンの専門医だけの問題では  
ありません。病院の専門医と、地  
域の医師との連携が必要となっ  
てきます。以前、救急救命に脳出血  
の男性が運ばれてきました。治療  
をしていましたら、奥さんが「障  
害が残ったり、寝たきりになるよ  
うなら、治療はしないでください」  
と言われたのです。昭和五十年代  
でした。確かに一命を取り留めた  
としても、障害が残れば、その後  
の奥さんのご苦労は容易に想像で  
きました。医師は、人の命を救う  
ことだけを考えていけばいいの  
かと感じていました。平成十二  
年になって、介護保険などのシス  
テムがあるからこそ、障害が残っ  
たとしても、救命救急の医師たちも  
悩まずに命を救えるようになった  
と思います。

### 病気を持っていても幸せ

浦井 突然の病気や事故などで

は、いろいろな状況があるでしょ  
う。ご家庭によって反応も違うで  
しょう。たとえばどんなに障害が  
残っても命だけは助けてほしいと  
私たち宗教者は考えます。しかし、  
障害者を抱えて生活していけない  
と考える人のことは否定できませ  
ん。ただ、いま先生がおっしゃら  
れた、在宅介護がもっと充実し、  
家庭・家族・地域社会、そして地  
元の医師が連携することによっ  
て、体が不自由でも精神的な安定  
が得られれば、考え方も変わって  
いくのではないのでしょうか。一概  
にこうしなければいけないという  
決まった処方箋はないと思いま  
す。基本的には、人がいかに心安  
らかに療養を受け最期を迎えられ  
るのか。それに家族として、地域  
として、医師として、あるいは宗  
教者としてどう関わっていくの  
か、ということに視点を置いて全  
体を考えていく。人の死は千差万  
別ですから、すべてを理屈でもっ  
て割り切ろうとすると無理があり  
ます。

浦井 障害があるなしに関わら  
ず、与えられた条件の中でどう生  
きて、どう考え方を変えていくの  
か。われわれ宗教者はそのお手伝  
いをしなければいけません。身体  
的な条件を治すのは医師のお仕事  
でしょうが、発想の転換を図ると  
いうことはわれわれの仕事だと思  
います。それは生きる意欲に繋  
がっていくわけですから、いろい  
ろな方法でまわりが支え、本人が  
生きる喜びを持つようにする。  
そして、その人の話を聞いてあげ  
る。百パーセント悩みを解決でき  
るものではなくても、聞いてあげ  
ることが重要なんです。

(次号に続く)

## 生きる喜びを持つてもらうためには 話を聞いてあげることが重要

## 四年ぶりの再会に感激

### ―埼玉教区で敬老会

昨年十一月五日、埼玉県  
の川越プリンスホテルに於  
いて、埼玉教区(森田幸雄  
所長) 敬老会が開催  
された【写真】

この会は、教区内  
寺院住職や寺庭婦人  
などで、満七十五歳  
以上の方を対象にし  
たもので、四年に一  
度行われている。当  
日は、十七名の招待  
者はじめ総勢六十七  
名が集い、雅楽の演  
奏や舞い、寺庭婦人  
のコーラスなどが催  
され、参加者は四年



【埼玉・木本清玄通信員】  
ぶりの再会に感激の様子で  
あった。

## 天台トピックス

### ◎天保連研修会開催

十二月一日、東京・浅草寺  
で天台保育連盟(天保連) 園  
長研修会を開催。仏教保育協  
会の上村映雄理事長による講  
演『これからの仏教保育を考  
える』を拝聴。宗教離れ・少  
子化社会における仏教保育の  
重要性について考えた。続く  
て園長会議が行われ、大法会  
慶讃事業では絵本『最澄さま』  
の作成、平成十七年度保育大  
会を東京、十八年度は延暦寺  
会館で開催することがそれぞ

### ◎人権啓発公開講座開催

昨年十二月二日、天台宗人  
権啓発課は「いのちの尊さを  
考える」をテーマに、公開講  
座2004を開催。連続殺人  
事件で遺族となった原田正治  
さんを講師に、死刑制度に関  
する講演が行われ「死刑は謝  
罪する機会を奪い、刑が執行  
されても終わりににはならな  
い。遺族の苦しみは続き、社  
会の被害者遺族に対する支援  
はまだ足りない」と訴えた。

## 祝 新任職任命

【神奈川・荏原寺】永井良廣師  
【栃木・龍藏寺】植木徳念師  
(平成16年11月27日)平成16  
年12月15日 法人部調)

## 示 寂

野本 覺忍師  
平成16年12月14日遷化  
山陰教区長昌寺名譽住職  
12月20日日本葬儀執行

# 光明供・弥陀供修法を研鑽

## 栃木教区で法儀研修会開催

昨年十一月十六日、栃木県河内郡にある普門寺(濱尾晃俊住職)を会場に、栃木教区法儀研修会が開催された。研修会は、延暦寺一山弘法住職清原恵光師(比叡山行院院長)を伝授師に迎え、教区内教師五十五名が参加して行なわれたもの。光明供・弥陀供修法は、天台宗僧侶にとつては日常的に用いられる作法とあって、



参加者は伝授師の所作や言動を熱心に書き取っていた。【栃木二本橋完成通信員】

# 感激も新たに授戒会を執行

## 埼玉教区で2回目の特別授戒

去る十月十九日、埼玉県岩槻市の慈恩寺(大島見順住職)において、第二回埼玉教区特別授戒会が開催された。今回は同教区の第一・五・六部の檀信徒約三百九十名が戒弟となり、同教区法儀研究会の壮麗な声明に迎えられ、伝戒和上の半田孝淳探題大僧正のお言葉も厳かに執り行われた。

授戒会を終えた戒弟の一人は「感激した。参加して本当によかった。先ずは菩提寺のご本尊様と我家のご先祖に今



日のお礼を言いたい。そして次回の授戒会には家族や知人にも是非参加させたい」と話していた。

第三回特別授戒会は、平成十七年六月十六日に坂戸市で開催予定。【埼玉・奥山元照通信員】

# 大般若転読法要を執行

岡山 仏青

昨年十一月七日、岡山市下高田にある実相寺(今井龍典住職)で、同教区仏教青年会が、大般若転読法要(六百巻)を執り行った【写真】。

実相寺では、前日の六日に、新しく建立された本堂の落慶法要が盛大に執り行われており、当日は、仏青会員主催のもと、今井住職を導師に



会員十三名が出仕し、転読法要が行われた。【岡山・井上全正通信員】

# 自然災害と人間



昨年(平成16年)は実にいろいろなことが起った。そして、それらを解決する糸口を見つけれぬまま、新しい年を迎えてしまったのが真相であろう。まず新年の寿ぎを述べる前に、台風や地震で被災し、厳しい寒さの中で復興に懸命に努力されている方々に、心からお見舞いを申し上げたい。一方阪神大震災以後、国、地方自治体はもちろん、市民の中にも災害に対する意識改革もたらされ、もちろんいまだ問題は少なくないが、救援体制が、ボランティアも含めて比較的にすまやかにとられたのは不幸中のさいわであった。

元来日本人は天災に逆らわず、共存の道を歩んできた歴史がある。そのせいか中越地震の被災者の表情に絶望というより、悲しみに耐えながら立ち上がろうとする強い意志が感じられた。さらに生活必需品と共に先祖の位牌を大切にしている姿があちこちで見受けられた。

江戸時代末期の天台宗の高僧である慧澄和尚の言葉に「人の世は好事ばかりにして立ち往くものに非ず。地震、雷、火事、大水種々の災変も皆人の世に備わりし事」というのがある。ところが、近代日本人は科学技術の恩恵にどっぷり浸っているうちに、いつの間にか自然災害は人間の力に

よって克服できるものと過信するに至ってしまった。それは同時に自己中心の人間を造りあげ、先祖を大切にすどころか、家族の絆も怪しいものとなろうとしている。だから本当は、中越地震の被災者の人々の姿に学び、精神的に助けられているのは、なに不自由なく暮らしているようにみえる、都会の人々かも知れない。

かつて伊豆半島を襲った狩野川台風による大惨事があった。上流に掛けられたコンクリート製の橋に、台風による流木が次々とひっかかり、やがて水が堰止められて辺りが湖と化した。そのうち橋が水の重量に耐えかねて流された時には、

大量の濁流が民家に及びおびただしい死者を出してしまった。かつてこの橋は木造であったため大雨で度々流されたが、死者を出すことはなかったという。丈夫な橋を造れるようになった技術の進歩と、自然を克服しようという人間の浅知恵の生んだ悲劇であった。

治山治水と称して必要以上の巨大なダムをつくったり、曲った河川を真直にしたりしたが、この自然改造は、自然の側からみれば、破壊であり人間のテロ行為と写っているかも知れない。人間の利益になると考えて行ったことが、人間を含めての自然のためになっていないという視点を取り戻せないだろうか。

# デスクから

年末年始は、工場と発送が休むので、今号は例月より十日早く十二月二十日に印刷に回りました●阪神淡路大震災特集は、なるべく具体的な話を聞くようにしました。ベタ甘の美談特集にはしたくなかったのです。若い僧侶の被災地で、皆さんと話をした親しくなった。しだいに、そのことが自分たちの楽しみになっていく。『被災地域に

踏みとどまって、復興してゆこう」という人の手助けをする、というのが本来のボランティアの姿。少しでもそう言いたいのなら嬉しい」という発言には、足が地に着いた力強さを感じました。ペンツと毛皮やステッキの話など、取材しなくては出てこないリアルな話でした●今回の特集は、記者たちがそれぞれ取材に出て、持ち寄った記事を一本にまとめる方式を採りました。ご協力頂いた各位に感謝申し上げます。



# 檀信徒の皆さまへの発送を代行します

本紙は、4月23日付で第三種郵便物に認可されました。認可により、全国への発送料が一律に60円という割引料金が適用されます。この機会に、是非檀信徒の皆様にも配布を頂きたく、定期購読のお願いを申し上げます。

なお、毎月の発送が煩雑とお考えの御寺院様のために、天台宗出版室では発送業務の代行をいたします。詳しくは、出版室にお問い合わせ下さい。

〒520-0113 滋賀県大津市坂本4-6-2

天台宗務庁 総務部 出版室

☎ 077-579-0022 FAX 077-578-4814

お問い合わせ

天台宗務庁御特命 三諦草装袈專織所

# 森忠法衣店

五代目 森忠兵衛

〒604-0842

京都市中京区押小路通烏丸東入

電話 075-231-1203番

FAX 075-255-7020番

山寺庁達 本膳務用 総延宗御



一隅を照らす運動総本部と延暦寺では、昨年十二月二日、天台宗務庁において、NHK歳末助け合い運動と海外助け合いに対する義援金の寄

## 托鉢義援金をNHKへ

～地球救援募金と併せて～



託式を行なった。歳末助け合い募金は、師走の恒例行事「天台宗全国一斉托鉢」として、総本山延暦寺が昨年十二月一日に、渡邊恵

進天台座主親下を先頭に行われたもの。同日は一山住職と天台宗務庁の役員らが比叡山麓坂本界隈で助け合いを呼びかけた。手甲、脚絆と網代笠姿の僧侶が門前町を行脚、さらにJR比叡山坂本駅等で街頭募金を行ない、道行く人々に協力を呼びかけ、五十七万六千二百円の浄財が寄せられた。また、地球救援募金から海外助け合いに百万円を寄託した。

当日は、NHK大津放送局から西口修局長が来庁し、西郊良光天台宗宗務総長と森定慈芳延暦寺執行がそれぞれ義援金を手渡した(写真)。



## 世界を浄仏国土に

一隅を照らす運動会長

小堀 光詮

皆さん明けましておめでとうございます。二十一世紀に入りま

いました。いま天台宗では開宗千二百年の大法会を迎えて

す。仏さまを信じ仏さまの教えを信じ、しかもお互いが助け合い、力をあわせて

とたん、世界は、日本は、伝教大師さまの仰せの通り「三災の危うきに近づき五濁の深きに沈む」の様相を呈しています。

それは人間のもつ煩惱のなせる業とは申せ、民族や宗教間の争いで戦争がある

檀信徒の皆さん、この大法会を契機に一人ひとりが思いやりの心をもって、力を合わせ世直しの尖兵とな

はては骨肉の争いで血で血を洗うまことに嘆かわしい悲惨極まりない事件が続出して、何が起きてもお不思議でない世の中になつてしま

うか。また、タイのドワン・プラティープ財団やSVAバンク事務所を訪問し子ども達との交流を図り、さらに昨午春に大規模な火災に見舞われたスアンブルースラムを視察し

## タイ・ラオス視察団を派遣 —建設小学校などを訪問—

一隅を照らす運動総本部では、「タイ・ラオス交流親善視察団」を、昨年十二月五日から十日までの六日間派遣、ラオスに建設された学校の視察や新たに建設された学校の贈呈式、

また、タイのドワン・プラティープ財団やSVAバンク事務所を訪問し子ども達との交流を図り、さらに昨午春に大規模な火災に見舞われたスアンブルースラムを視察し



## 岩手大会を開催 作曲家・船村徹氏を講師に招いて

陸奥本部

陸奥本部(菅原光中本部長)では、昨年十一月二十七日、岩手県平泉町の平泉小学校体育館で、一隅を照らす運動岩手大会が開催され、教区各地方から約九百名が参加し

た。

大会では、作曲家の船村徹氏を講師に「歌は心でうたうもの」と題した講演(写真)と、「歌供養の心」をテーマに、船村氏と千田孝信中尊寺貫主との対談が行なわれた。

講演で船村氏は、世に出せなかつた曲と盟友の為に作曲活動を続けている事や、自身の波乱の半生を折ユームアを交えながら話し、参加者からは涙と笑いと感動の三時間であったとの講評が聞かれた。

当日会場で集められた浄財七十万円は、地元社会福祉協議会と天台宗新潟中越地震災害対策本部に寄託された。

たナーサワン小学校(写真上)の贈呈式に臨んだ。九日にはバンコク市内のスアンブルースラム(写真下)を視察、昨年六月にはSVAを通じて復興支援金五十万円を送金しているが、ラオスやタイでは、今後も支援の必要があると実感した。

▼交流親善視察団(敬称略)

- 団長 西郊良光
- 副団長 壬生照道
- 団員 白崎良典 鷺谷亮順 明石 稔 森雄次郎



- 西郊良俊 西郊由美子 関根八重子
- BAC 荒樋勝善 三田景子
- 事務局 小林慈誠 西村智秀

## 素晴らしき言葉たち

ひとの邪曲(よこしま)を見るなかれ。  
ひとのこれを見なし、かれをなさざるを見るなかれ。  
ただおのれの何をなし、何をなさざりしを想うべし。

法句経・五〇

人間、誰も他人のことにはよく見えます。他人の欠点や悪い面は容易く見つけられることが出来ます。反面、自分を見る眼は甘く、他人から悪い部分を指摘されようものなら、そんなことはないと猛反駁します。我を離れて自分を客観的に見ることはなかなか難しいものです。その心の根底にはやはり、他人の評価を気にする自分というものが根深く在るからでしょう。自分に自信がないから、他人の指摘を受け入れられない言葉です。

「一隅を照らす」とは、このような心から始まるのだと思います。一年の始まりにあたって、かみしめた